

夏秋キュウリの有機栽培での 防虫ネット被覆による炭疽病の被害軽減

福島県農業総合センター 作物園芸部野菜科
生産環境部作物保護科

1 部門名

野菜 - キュウリ - 作型・栽培型、病害虫防除

2 担当者

緑川弥寿彦・堀越紀夫

3 要旨

夏秋キュウリの有機栽培では、化学合成農薬による防除を行うことができないため、炭疽病の多発が減収要因となる危険がある。農業総合センターでは防虫ネット被覆ハウスを利用した有機栽培を検討してきたが、炭疽病の被害軽減に防虫ネット被覆の効果が認められた。なお、品種の違いによる発病の差は、認められなかった。

- (1) 露地では、8月に入り大部分の葉で炭疽病が発生したが、防虫ネットを被覆したハウス内での発病は少なかった(図1)。
- (2) ほ場での栽培に使用した品種では炭疽病発生の品種による差は判然としなかった。そのため、接種試験により確認したところ品種による発病の差は、認められなかった(図2)。
- (3) 以上、化学農薬を使用しない夏秋キュウリの有機栽培において、耕種的な炭疽病軽減対策として、防虫ネットによる被覆は効果がある。土の跳ね上がりなどが軽減されるためと考えられる。
- (4) なお、防虫ネット被覆で炭疽病の発生が確認されたら発病葉の摘葉などを早期に行う必要がある。

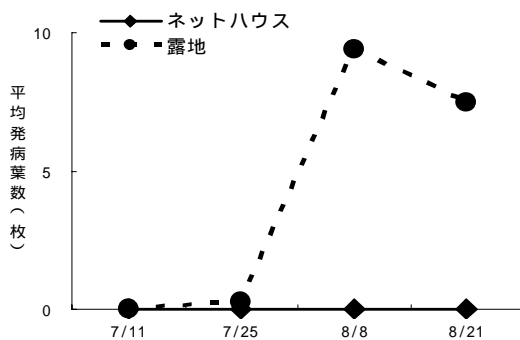


図1 防虫ネット被覆による炭疽病の軽減効果

品種：Vサマー
各株10葉調査

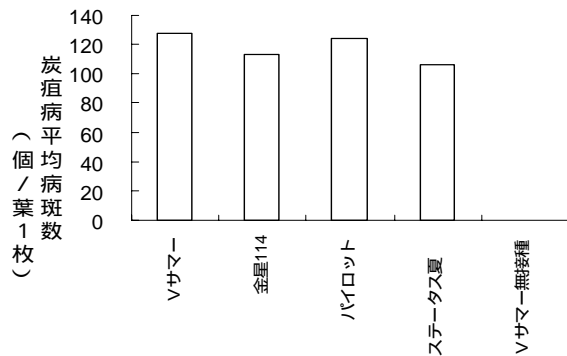


図2 品種による炭疽病発生の差
ポットによる接種試験

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成20年度福島県農業総合センター試験成績概要(2008)